

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102828		
法人名	社会福祉法人 敬友会		
事業所名	グループホームコスモス		
所在地	岡山市北区田中109-112		
自己評価作成日	H21. 12. 1	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370102828&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の今までの生活を大切に、グループホームに入居して自宅で暮らしていたような当たり前の生活を送っていただきたい。それを支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一見民家と間違えるような建物の中に一歩足を踏み入れると、そこでは入居者が様々な過ごし方でリビングにて寛いでいる。建物自体は介護保険発足以前から認知症対応型ユニットケアのモデルケースとして建築されたもので、居室の中に全室トイレが付いているなど、入居者に対する心配りが感じられる施設である。入居者は一人ひとりが自宅にいるように、窓から見える植木やそこに飛んできた小鳥を眺めたりして昼下がりのひとときを過ごしている。職員と談笑している人もいれば、気の向くままにソファに座ってテレビを観ていたり、ご家族の訪問に嬉しそうに入室で話して花を咲かせていたり様々な世界が広がっている。職員はその一人ひとりの人生を真摯に受け止め、そこに自分の人生も重ね合わせて入居者に対してまるで空気のように寄り添いながら日々の支援に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新人研修をはじめ、勉強会等機会あるごとに理念を確認し、職員全員が理解していけるように努めている。	事務所のカウンターの上部壁面に理念を掲示している。入社時の新人研修や法人内での勉強会などで理念や接遇についての研修を行い、職員が理念を理解する為の勉強を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域の夏祭り、公園の掃除に参加し、地域との交流を深めれるように努めている。	地域の中学校から職場体験をする為に中学生の訪問が定期的にある。公園に隣接しているので、夏祭りにも参加したり、秋にはホームに神輿が来たりして地域との交流もあり、行事には積極的に関わっている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りや掃除に参加したり、町内の回覧板にてコスモス新聞を回していただき、地域の方に理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、町内会長や家族、民生委員の方にもお越しいただき、意見やご要望を頂けるように取り組んでいる。	二ヶ月に一度の定期開催。活動状況の説明、理念についての理解、インフルエンザの予防、配食業者による栄養指導等、地域の方々に気軽に参加していただき、運営推進会議の周知に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの問い合わせや提出書類などには迅速に対応するように心がけている。	市町村の担当者には日頃からわからない点を訪ねたり、運営推進会議の議事録を送ったりして、連絡を密に取るように努めている。	より良いサービスや運営のあり方を模索していくためには、市町村の担当者との連携が必要なことも多く、そのためにも、実態を知ってもらい情報を共有することも大切です。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については道の交通量が多しかたなく行っている。ただ、リビングの窓より庭や駐車場に出ることは出来るようにしている。	身体拘束については、法人内で身体拘束委員会を設置して3～4ヶ月に一度の割合で勉強会を開催して、職員からの意見や提案を聴くようにしている。転落する危険のある入居者に対しては、予防の為にコールマットを敷くなどして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開催している。また、虐待について勉強会などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が必要としていることを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の中で利用者や家族に説明し、質問に対してもご理解いただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、ケアプランの説明にご要望をお聞きし、ご要望にそえるように努めている。	リビング内の壁面のボードに入居者のそれぞれの希望や要望がメモ書きされて掲示してあるので、誰でも目にすることが出来てわかりやすい。要望のみで終わることなく実現に向けて職員が対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際や申し送りの時に職員の意見を反映できるように努めている。	カンファレンス時に職員から意見や要望がでる。要望に対しては期限を決めて、実践してみるようにしている。意見や要望は職場のリーダーである管理者に伝えられ、管理者はその意見を法人内で検討し、反映してもらうように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績をみとめキャリアアップ研修に参加し、資格がとれるように援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や外部内部ともに研修に参加し、キャリアアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や他のユニットの合同研修に参加し、広い視野で学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居時、入居後に入居者の要望や不安に思っていることを定期的にお聞きし、職員全員がニーズを把握できるようにケアプランに記載している。 ・ご入居者一人一人に担当職員をつけ、より注意し、要望を聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に度々家族とお話をさせていただき、ご要望や不安に思っていることをお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のご要望をお伺いし、何を必要としているのかを見極め、支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを生活の場として考え、入居者が今までされていたことをグループホームでも実践していけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会をお願いし、家族と過ごす時間を出来るだけとっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アクティビティとしてよくお祭りに行かれていた神社や商店街など、行けるように外出の援助をしている。	基本的には24時間面会可能である。ご家族の訪問以外では、友人や近所の方など入居者の今までの生活の中で関わりのあった人達の訪問がある。	認知が進むと、今までの関係継続や社会との関わりを維持していくのは大変なことです。ご家族とも話し合いながらさらなる支援体制を作っていくことを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が仲良く話が出来るように、ソファーやこたつの配置を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後にお手紙を出したり、施設に面会に行かせていただいている。 ・お亡くなりになられ、1周期には写真とともにお手紙を書いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで生活されていたスタイルを出来るだけグループホームに入居しても続けていけるように気をつけている。	今までの生活スタイルを変えることなく生活していただけるように、入居者との何気ない会話の中から食事の好みや普段の生活についての意見などを聴きだして反映することが出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を、本人や家族に細かく伺い、また入居前のサービス事業所にも情報提供を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在できる能力に対して、ケアプランに記入し、過剰な介護をしないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と十分にお話を聞き、入浴拒否など家族に協力していただき一緒にケアをさせていただいた。	あくまで入居者本人の希望を尊重し、職員からの目線ではなく入居者自身が感じている問題点をご本人との何気ない会話や、ご家族との話の中から汲み上げて、ケアプランに反映させ、支援させていただくように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を細かく記入し、朝・夕の申し送りを行い、介護日誌にも記入し、職員全員が目を通すようにしている。また、カンファレンスにて再度確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人の状態やニーズに対応できるように努力しているが、多機能化といわれると難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・NPOのボランティアサービスにお願いし、歌や民謡に着いていただいている。 ・地域の理美容院の元に訪問していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人の希望されるかかりつけ医にお願いしている。 ・往診可。 ・受診は家族が同行できないときには職員が対応している。	協力医療機関には救急の場合の受け入れや、往診の支援を24時間体制でお願いしている。歯科や皮膚科も必要に応じての往診体制が出来ている。また、入所以前からのかかりつけ医に診てもらうことも可能でご本人やご家族の意見を尊重している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こうなんクリニックのかかりつけ医にその都度相談し、支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	度々面会に行き、家族より情報を伺ったり、病院関係者とも情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を十分に聞き、グループホームで出来ることを家族に相談している。	状態が悪化した場合、必要と判断したときに同意書を頂くようにしている。ご家族と相談をしながら、グループホームでできることは充分に対応させていただくようにしている。看取りについては経験を重ねている。	入居者や家族の意向を踏まえながら、医療機関や職員が連携をとり、来るべき日が安心して迎えられるように最大限の力を発揮されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアル作成 ・年2回の訓練を行っている。	年2回、夜間と昼間を想定した消火訓練を行っている。スプリンクラーは平成22年4月以降の設置予定になっている。	災害はいつ起こるかわかりません。いざという時に確実に入居者を守ることが出来るように町内会長をはじめ近隣の住民の方々と普段から防災についての話し合いの場を設けるようにしてみることも大切です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の個性を大切にその人の生活リズムに合わせている。また、職員の言葉掛けが失礼にならないように十分注意している。	全室にトイレが付いているため、排尿時の声掛けや誘導にも大きな声で話さないなど他の入居者に気づかれることなく、プライバシーや人格を尊重しながらの適切なケアが行われている。また、法人内で研修や教育による指導も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かいことでも本人に決定できるようにしている。例えば服を選んだり、入浴の時間であったり、トイレの時間であったりと本人の思いを大切にしていきたいと思っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者の要望を優先している。その日、その時の状況にあわせ買い物や外出等入居者の楽しみを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入浴時には自分で服を選んでいただいている。 ・外出時や行事の時には希望者にはお化粧をしたり、2～3ヶ月に1度は化粧ボランティアの方にフェイスマッサージをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員とともに調理や後片付けまで一緒に行っている。 ・好き嫌いを配慮しながら食べやすい形態にしている。	配食業者に食材を運んでもらっているが、味噌汁と副菜は入居者と職員と一緒に作っている。個人個人の希望を採り入れながら、月に6～8回はホーム独自の献立で入居者と一緒に作り、一緒に食事を楽しむケアを実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日のカロリー摂取量や水分量には十分に注意している。 ・月に1回の体重測定を行い、変動をみて医師と相談しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・1日4回口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。 ・月に1回歯科医に往診をしてもらい、寝たきりの方の口腔ケアを行っていただき、日常の口腔ケアのアドバイスをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排尿パターンを理解し、本人にあった時間にさりげなく誘導するようにしている。	排尿チャートを記録し個人の生活サイクルを把握することによって異なる排尿時間を考慮した上でトイレに誘導するように努めている。おむつが必要な入居者に対してもその人に合ったものを使用したいので個々におむつの種類を変えて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・1日の水分量や青汁、オリゴ糖、オクノスなど便秘に有効なものを摂取していただく。 ・朝のラジオ体操や入浴時の腹部マッサージ等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を行っており、希望の時間に入浴できるようにしている。	入浴も一つのアクティビティと考えて、出来るだけ入居者が希望する時間で対応できるように、夜間の入浴は21頃まで対応している。昼間は14～15時ぐらいまでに入浴される方がほとんどで、夕食前までには入浴を済ませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ外出などの日常の活動を促し、生活のリズムを整えている。寝付けない方にはホットミルクを出し、職員と話をしたり自然に休めるように促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の時には必ず名前と薬の数を確認し、飲み込みまで確認している。薬の効能や副作用を個人ファイルにとじ、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・外出時や行事の時には必ず写真を撮り、個人のアルバムに入れ、楽しみに見ている。 ・行事の時にはノンアルコールビールをお出しし、お好きな方に飲んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族にお伺いし、昔よく行っていた場所や家に外出できるように支援している。	不定期だが四国や神戸など、高速道路を利用して1～2時間のところへ行っている。以前神庭の滝に行ったときには好評だった。外食に出かけると気分が変わるのか、普段より食欲も増すようなので入居者の希望を取り入れながら、日常性を取り去ることがないように支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者4名は自分でおこずかいを管理されている。希望時には買い物もされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には自由に電話や手紙を出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を大切にして、お雛様や節句、クリスマス、お正月と飾りつけを行っている。 ・月に2,3回利用者に生け花をしていただいている。	リビングには椅子や車椅子に座ったまま対応できるテーブルタイプの炬燵が置いてあり、入居者はその炬燵にあたりたり、ソファに座ったりしながら、思い思いに談笑したり、テレビを観たりしている。玄関を入ったところには季節を感じさせる飾り付けがしてあり、可愛いコーナーになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下などにちょっと座ってくつろげるスペースを作っている。 ・中庭にも自由に出て、日光浴を楽しんでいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時にはご自宅で使われていた愛用の物を持ってきていただけるように話し、揃えて貰う。 ・ご家族の写真やお位牌を持ってこられている方もいる。	居室の中には愛用の品や筆筒、家族の写真などが置かれ、入居者を日常の生活から隔離することがないように家族との関係継続も確保しながら、それぞれの生活習慣や個性を尊重して、安心して暮らせる空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内で自分で歩けるようにベッドや家具の配置に気をつけている。		